

事業名称	Goodstock センター（空き家残置物の再販流通ネットワーク）開設による除却促進と利活用の双方向推進モデルの開発
事業主体名	特定非営利活動法人 Goodstock
連携先	兵庫県たつの市 / 兵庫県立大学 /
対象地域	兵庫県西播磨地域 (たつの市、宍粟市、相生市、赤穂市、太子町、佐用町、上郡町)
事業概要	空き家に残された残置物を適切に再販できる、拠点として Goodstock センターを立ち上げます。空き家にある残置物をアップサイクルし、適正価格で市場流通することによって、その売上をもとに適切に空き家の除却をすすめ、利活用できる空き家にはアップサイクルした残置物を再活用して改修するモデルを構築します。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組③-1 Goodstock センターの立ち上げ</li> <li>・ 取組③-2 空き家への活用推進</li> <li>・ 取組② 除却に関する啓発</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残置物を活用したアップサイクル家具の開発プロセスの確定 (地元職人、クリエイターとの連携)</li> <li>・ Goodstock センターとしての拠点整備</li> <li>・ アップサイクルに関する啓発 PR の実施</li> </ul>
成果の公表方法	NPO 法人 Goodstock ホームページ <a href="http://good-stock.net">http://good-stock.net</a>

## 1. 事業の背景と目的

本事業では、空き家に残された残置物をアップサイクルし再流通させるセンター（拠点）として Goodstock センターを立ち上げます。センターではアップサイクル商品の開発、残置物のストック、空き家に関する啓発を行います。このセンターを立ち上げることによって、除却対象物件に対しては、残置物や材料をレスキューした上で解体をすすめ、レスキューした残置物はセンターでアップサイクルして物件の改修や家具などに再活用することを目的としています。これは空き家をきっかけとした地域循環をうむ取組です。残置物をアップサイクルすることで、適切に市場流通し、売上をもとに空き家の除却が進むとともに、利活用できる空き家では残置物を再活用する双方向モデルを構築します。

### 1) 背景と課題

当法人が運営するたつの市空き家相談センター（たつの市委託事業）では、年間で約 150 物件の空き家相談に対応しています。たつの市空き家相談センターは公設民営のセンターであり、空き家相談の出

口はたつの市空き家バンクへの掲載です。今後も利活用可能な物件については、スムーズに空き家バンク登録ができるものの、解体したほうがよい物件もあります。しかしながら、実際に解体見積もりをとってみるとその金額の高さから、解体を諦め放置する案件がいくつもあります。適切に空き家を除却することは非常に重要でありながら、所有者の資金負担が課題となり除却が進まないのが事実です。すでに社会課題となりつつある空き家問題ですが、利活用事例は多く取り上げられるものの、それらは空き家のごく一部であり、多くの場合が解体・除却を進めなければならないのに結果的に放置されている状態です。空き家の放置は景観や治安の面で地域社会に影響を与えるだけでなく、地域の文化継承にも影響を与えていると考えています。

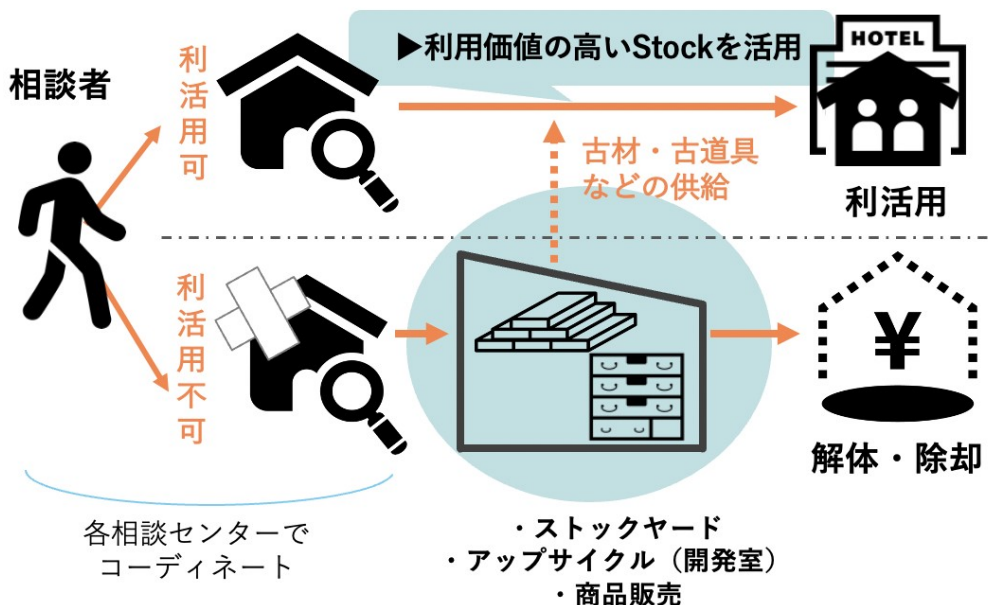
## 2) 目的

これらの課題に対して、空き家残置物をストックし、アップサイクル文化を広めるための Goodstock センターを立ち上げます。このセンターを拠点として、将来的にはアップサイクル商品を適切に販売できる流通ネットワークを作ることで、解体資金の一部を確保するモデルを構築します。

また昨今の DIY ブームとしても新材を使うのではなく、古材を活用することが主流となりつつあります。特に移住者や店舗の出店者などは、ホームセンターで新材を買うのではなく、地域文化を感じ取れる古材を使うことを好んでいます。しかし、古材を手に入れる方法は限られており、適切に手に入らない課題を抱えています。これに対して、残置物のアップサイクルをマッチングさせることで地域固有の素材や家具を再活用し文化を継承します。

具体的には、当法人が運営するたつの市空き家相談センターの相談案件から解体されるであろう物件を明らかにします。それらの所有者に了解を得て、残置物をレスキューします。これら残置物は Goodstock センターにストックし、地元の職人などによってアップサイクル家具に生まれ変わらせます。アップサイクル家具は店舗や住宅、まちなかで活用することとします。

図1 アップサイクルの流れ



## 2. 事業の内容

### 1) 事業の概要と手順

本事業は2019年度からの継続事業です。2019年度は空き家の残置物をそのまま再流通させることで再価値化すると考えていましたが、残置物そのままでは活用の可能性が低いと明らかとなりました。再流通のためには、ひと手間加える（アップサイクルする）ことで残置物の魅力を増やすことが必要だとわかりました。そこで今年度の事業では、レスキュー、アップサイクル、販売、啓発などをまとめた拠点としてGoodstockセンターを開設し、空き家にある資源の再循環を試みます。Goodstockセンター（取組③-1）の機能とその効果は以下のとおりです。

#### 【Goodstockセンターの機能と効果】

- ① 解体物件からレスキューした残置物のストックヤード  
→解体物件から残置物が減少することによる解体費の削減
- ② レスキューしたものをアップサイクルする（開発機能）  
→地域のクリエイターやアーティストが参加することによるまちづくり効果
- ③ アップサイクルしたものの販売（利益はレスキュー元へ還元される）  
→移住者や出店者の空き家改修への材料供給

現在、たつの市城下町ではまちやどとして、複数の古民家ホテル群を計画しており、古材などの残置物を活用したアップサイクル家具の開発をすすめ、古民家ホテルの什器として配置されることが想定でき、空き家活用の推進（取組③-2）にもつながります。

表1 取組内容

取組内容	具体的な内容（小項目）	担当者（組織名）	業務内容
取組③-1 Goodstock センター の立ち上 げ	解体物件からレスキューした残置物のストックヤード機能	NPO 法人 GS	拠点としてGSセンターを立ち上げた。一部改修が必要であったため、その準備を進めている。
	レスキューしたものをアップサイクルする（開発室）	NPO 法人 GS, 地元クリエイター	アップサイクル家具の開発を実施。地元のクリエイターとつながることで多様なデザインを生み出す。
	アップサイクルしたものの販売	NPO 法人 GS,	アップサイクル商品の受注をおこなう。
取組③-2 空き家活 用の推進	現在ある残置物等のテスト販売	NPO 法人 GS	残置物で販売できそうなものをテスト販売する。
	アップサイクル商品の物件改修への活用	NPO 法人 GS	回収した物件へアップサイクル家具を配置すること

			で、資源循環させる。
取組② 除却の推 進	残置物レスキューの推進と情報発信	NPO 法人 GS	Goodstock センターとして 情報発信をおこなう。
	相談対応での解体推進	NPO 法人 GS	相談センターの相談案件か ら残置物活用し解体できる 物件をすすめる。

表2 取組スケジュール

取組内容	具体的な内容 (小項目)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		取組③-1 Goodstock センタ ーの立ち上げ	解体物件からレスキューし た残置物のストックヤード 機能					
	レスキューしたものをアッ プサイクルする (開発室)							
	アップサイクルしたものの 販売 (利益はレスキュー元へ 還元される)							
取組③-2 空き家活用の啓発	現在ある残置物等のテスト 販売							
	アップサイクル商品の物件 改修への活用							
取組② 除却の推進	残置物レスキューの推進と 情報発信							
	相談対応での解体推進							

## (2) 事業の取組詳細

### 取組③-1 Goodstock センターの立ち上げ

この取組では、2019 年度に候補地として検討していた、物件を Goodstock センターとして始動させました。そのために空間づくりのプロをコーディネーターに招いて、数回のワークショップを開催しながら空間づくりをおこないました。この拠点では、アップサイクル家具の開発検討、小規模なストック機能、展示場機能をもちます。定期的の開館し空き家に関する情報提供をすすめます。

図2 Goodstock センターワークショップの様子





図3 Goodstock センターワークショップの様子

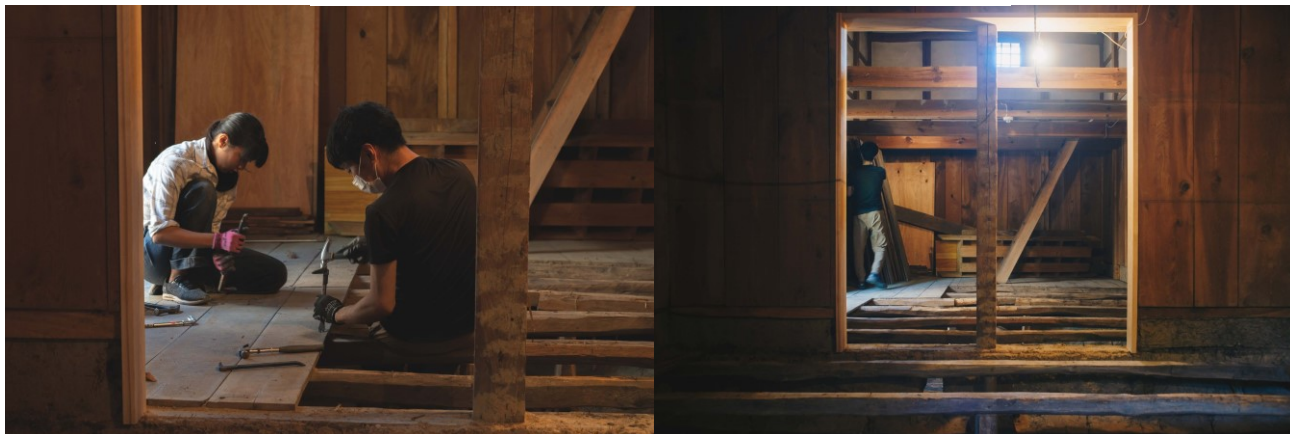


図4 Goodstock センターワークショップの様子

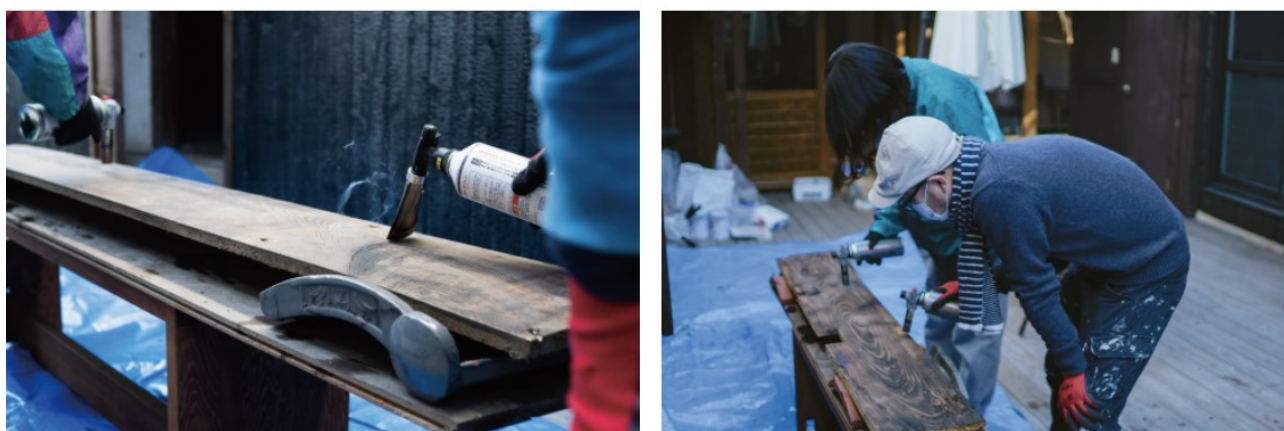


図5 対象としている物件の改修前の様子

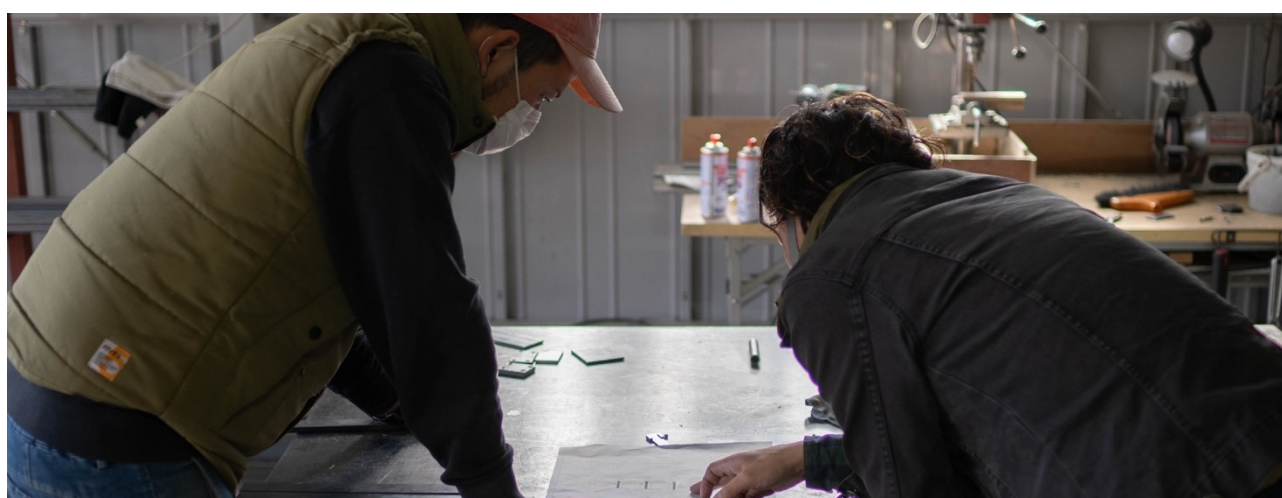


更に残置物のアップサイクルとして地元家具職人への声かけをおこない、既存の残置物ストックを活用したアップサイクル家具を開発しました。2020年度の状況から、屋外空間の活用が必要だと考え、複数の職人と協働し、主にベンチを作成することとしました。空き家からの残置物を活用したアップサイクルという切り口によって、多くの地元職人とつながることができています。またすべての職人が、この事業の意義に賛同してくれており、今後も積極的に関わってもらえる体制づくりを進められています。

表3 Goodstock センター改修活動

日時	コーディネーター	内容
12月28,29日	小睦雅史	Goodstock センターの床の整備、限定的に参加者を集めてワークショップ形式で実施した。
1月13日	小睦雅史	前回、床をめくった部分について新たに床を作って床貼りワークショップをおこなった。
2月6日	小睦雅史	1月に行った作業と同様の作業をおこなった。また必要最低限の電気工事について検討した。

図6 家具職人との打ち合わせの様子



### 取組③-2 空き家活用の啓発

本来であれば、数回のテスト販売をする予定であったが、状況的に開催が難しかったため、その代替としてテスト販売用のWebショップを立上げた。Webショップでは、2019年度に開発したアップサイクル家具と、2020年度に開発したベンチ類について受注販売をできるようにした。

またアップサイクル家具の物件への活用としては、たつ

図7 テスト販売したweb ショップ





の城下町で飲食店のテイクアウトが推奨されたこともあり、まちなかにアップサイクル家具として開発したベンチを配置することとした。計12台を設置し、現在も利用されている。これまで青いプラスチックのベンチが置かれていたものを置き換えており、古材を使うことで地域文化の継承の一助を担っています。

図8 城下町に設置されたベンチ



図9 城下町に設置されたベンチの設置前後



before

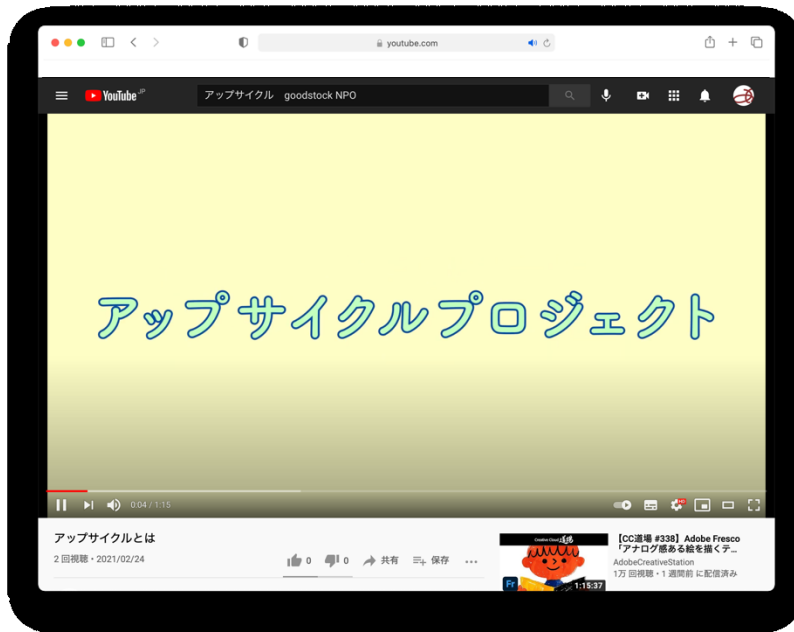
after

## 取組② 除却の推進

空き家の除却推進としては、日々の相談センター業務での啓発をおこなうとともに、動画を使ったPRをすすめました。動画は、アップサイクルの推進を進めるために、アップサイクルとはなにかについて、アニメーションでわかりやすくまとめました。これらはYoutubeにNPO法人Goodstockのチャンネルを作成し、アップロードしています。また今後は、Goodstockセンターでも上映できるように準備を進めています。

相談対応における除却の推進という面では、たつの市空き家相談センターにおいて、常時の相談で除却推進できるような声掛けを進めました。しかしながら、2020年度は相談件数も減少傾向にあり、解体につながる案件はありませんでした。そのため、アップサイクル家具の開発においても、残置物のストックが十分になく、開発が滞るところもありました。これは今後に向けた課題です。

図 10 アップサイクル啓発のためのアニメーション



### 3) 成果

本事業では、アップサイクルを推進することで空き家の除却を推進するための拠点として Goodstock センターを立ち上げました。また地元の職人と連携したアップサイクル家具を開発し、まちなかにベンチを置いたことで、アップサイクル家具が人の目に触れる機会を増やせました。アップサイクルを一つの手段として、一番の目的である空き家の除却推進をするためには、まずアップサイクルについて知ってもらう必要があったため、今回まちなかにアップサイクルベンチを設置したことによって広く知ってもらえる機会を作れました。

これら今年度の事業成果については、小冊子にまとめ、関係各所に配布しています。また今後の事業展開をすすめる上でも活用します。

#### 取組③-1 Goodstock センターの立ち上げ

本事業において Goodstock センターを立ち上げられたことは今後の事業継続性の面で大きな成果です。ストックヤード機能と情報発信機能を持たせたことによって、今後も継続的に事業をすすめることができます。今後は、センターでのイベント開催やアップサイクル家具の DIY ワークショップを開催するなど、多様な使い方を検討しています。

図 11 成果報告冊子





### 取組③-2 空き家活用の啓発

当初の予定では古民家ホテルへの活用を予定していましたが、2020年度の状況的にホテルの開業が遅れたこともあり、実現に至りませんでした。一方で、たつの市城下町でのテイクアウト推奨が進んだこともあり、まちなかにアップサイクルベンチをおくこととし、その開発を地元の職人と協働できたことが成果です。各ベンチには、ホームページのQRコードを示したタグを設置しており、アップサイクル家具であること、またその詳細の情報を得られるようにしました。

今回のアップサイクル家具を制作する過程で地元職人の発掘とネットワークづくりができたことも成果です。事業終了後も職人やクリエイターとの連携を継続する予定であり、今後はベンチ以外にもアップサイクルの家具を制作する予定です。

図12 アップサイクルベンチに示したタグ



### 取組② 除却の推進

除却の推進に関しては、啓発アニメーションを作成しYoutubeにアップしています。今後はGoodstockセンターでも放映する予定としています。当法人が取り組む、アップサイクルによる空き家の除却もできるをすすめるためには、専門家に限らず多くの人にアップサイクルの文化を広めていく必要があります。そのためにも、わかりやすいアニメーションで広報できるツールができたことは今後の事業展開をすすめる上で成果と言えます。

## 3. 評価と課題

### 評価① Godstock センターの立ち上げ

本事業における評価としては、拠点としてのGoodstockセンターを立ち上げられたことが挙げられます。残置物の流通のためにはストックヤードと開発室機能が必要でした。小さいながらもそれを実現できる拠点整備ができたことは評価できます。

### 評価② アップサイクルに関する啓発と開発の検討

また社会に発信するという面では、PR動画やベンチへのタグの設置など、できるだけ多くの人の目が止まるように仕掛けたのも評価できる点であると言えます。空き家をテーマにすると専門的でなけれ

ばならないと思われがちで、素人は関われないと判断されることもあります。

今回、アップサイクルを一つのテーマとした時、DIY や古材ブームをうまく活かすことでそれが空き家の解体につながっていることを伝えられたと思います。

#### 課題① 残置物の不足

一方で課題だったのが、残置物の供給不足でした。2020 年度は空き家の解体も十分に進まなかったことから、レスキューに行ける回数が減りました。今後は更に大きなストックヤードを持つことによって十分にストックを得ることで、アップサイクル家具の開発のペースをあげていくことが必要と考えています。

#### 課題② 不十分だったテスト販売

本来であれば Goodstock センターを活用してのテスト販売イベントを実施予定でしたが、状況から開催できずに終わりました。Web ショップでの検討を進めましたが、流入を十分確保できなかったこともあり、不十分だったと言えます。今後、Goodstock センターを中心にアップサイクル家具の受注販売も進めていく必要があります。

### 4. 今後の展開

本事業によって拠点と広報が整えられました。まず拠点ができたことによって、ストック、情報発信、開発ができるようになりました。今後はこの拠点を通じて、アップサイクル文化を広めるとともに、空き家の諸課題について啓発して行く必要があります。

また DIY ワークショップなどのイベントを通じて、専門家でなくても空き家に関して関与できることを示していく必要があると思います。

図 1 3 残置物レスキューの様子



■事業主体概要・担当者名			
設立時期	2018 年 8 月		
代表者名	福本真一		
連絡先担当者名	佐伯亮太		
連絡先	住所	〒679-4177	兵庫県たつの市龍野町下川原 80
	電話	0791-78-9220	
ホームページ	<a href="http://good-stock.net">http://good-stock.net</a>		